

「ふるさと学習」を通して育む郷土愛・愛校心

三原市立三原小学校

1 取組の概要

本校では、第3学年以上の総合的な学習の時間に「ふるさと学習」を位置づけ、三原の町の伝統・文化や産業についての学習、様々なキャリアをもつ地元の方々との交流を行い、郷土愛・愛校心を育成している。

特に教科等と郷土の伝統文化を関連付けた学習では、地域ぐるみで子供を育てる土壌づくりや三原の町を活性化する企画を行い、市内や市外に向けて発信している。具体的には、調べ学習で生まれた児童の疑問や思い、願いを地域の人と解決したり、地域社会に向けて発信したり、三原の祭りに参加したりするなどして、三原を元気にしたいという思いを育てている。

目指したい子供の姿は「三原小学校で学んだことに誇りをもち、堂々とわが地域を語る」「将来に夢や希望をもち、他者と協働して課題解決に取り組む」「多様な見方や考え方を受け入れよりよい考えを構築していく」である。グローバル化が進むこれからの社会に求められる力である。

2 本実践事例について

(1) 本事例実施の背景・これまでの取組

本校は、三原市の中心部に位置し、近くには三原駅や三原港、三原城跡等があり、全市的な祭り等の行事が校区内で実施されるという特色ある教育環境である。この環境を活かし、本校では、学習指導要領「総合的な学習の時間」編の学習活動に例として新たに示されている「地域の人々の暮らし、伝統と文化に関する学習活動」を行っている。この学習の中で、教科で身に付けた能力スキルを活用し、児童が課題解決を行い、地域社会に積極的に関わり、主体的な学びを身に付けていくよう工夫している。また、学年に応じた学習の積み重ねにより、第6学年では、児童一人一人の生き方や学ぶ意義を考え、自分の将来について考えを深めている。

第3学年では、「神明市子どもだるまを復活させよう」、第4学年では、「三原やっさ踊りに挑戦」、第5学年では、「三原たこつぼ漁と自然を考える」、第6学年では、「なりたい自分を見つけよう」に取り組んでいる。どの学習も、三原の町の様子や文化、昔の暮らし、歴史や漁業について事前学習を行い、自分の考えや疑問をもった上で、地域の方からの聞き取りや交流を行った。その後、三原の活性化のために何をどのようにしたいのか関わる方法を考え、その実現のために地域の方と共に取組む過程を大切にしている。また、学んだ情報は校内、校外、三原市、県内に向けて発信している。

(2) 指導のポイント

☆三原市の歴史や文化や人々の暮らしぶりを調べ、自分の課題や疑問、考えを明確にした上で、地域の方との交流や体験学習を行う。三原市の活性化のために何ができるかを多面的な角度から考え、議論させる。 (付けさせたい力1)

☆漁師の方や町内会、観光協会、ボランティア、行政など様々な方と交流し、三原の活性化のための努力や自分たちへの期待について、地域の方々の立場に立って考えさせる。 (付けさせたい力2)

☆調べたり聞き取りをしたりして分かったこと、三原を元気にしたいという思い、自分たちの企画について全校児童、保護者、地域の方々、三原市民に発信、表現させる。 (付けさせたい力3)

3 本事例の指導計画

(1) ねらい

- 三原の伝統文化や行事を調べ、生じた疑問や課題を解決する方法や企画を実践する方法を学ぶ。
- 三原の歴史や地域の方々の願い、期待を理解し、三原を元気にするために「三原神明市子どもだるま行列」を成功させるために協働的に活動を行う。

(2) 対象学年 第3学年 (全 20 時間)

※詳細は「くりっぷ」59号参照

	主な学習活動	指導上の留意事項
第一次 (10月)	<ul style="list-style-type: none"> ○三原市の活性化策を考える。 「祭りに参加すると、みんな元気になるよ。」 「参加するにはどうすればいいかなあ。」 ○三原市の歴史や祭りについて調べる。 ・三原市で行われている祭りや歴史について資料やインターネットで調べる。 ・調べたことを新聞スタイルでまとめ、校内で発表する。 ・三原を元気にするための方法を協議する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科で三原市を調べた後に、三原の人を笑顔にするために何ができるか、使命感をもたせるように、問いかける。 ・調べ学習のための資料集めを行い、児童に主体的に学習を進めさせる。 <div style="text-align: right;">  </div>
第二次 (11月)	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の方と学習会を行う。 ・昔の三原や神明市について地域の方から話を聞く。 ・分からないことや知りたいことを質問する。 ○グループに分かれ、テーマに沿って壁新聞を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・神明市を開催してきた思いや自分たちへの期待に気付かせる。 <div style="text-align: right;">  </div>
第三次 (12月～1月)	<ul style="list-style-type: none"> ○張り子のだるまを地域の方と作成する。 ・張り子のだるまができるまでの様子や思いを関係者の方から聞く。 ・指導者から説明や助言を受けながら色塗りや面相描きを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの方と協働してだるまを作る意義に気付かせる。 <div style="text-align: right;">  </div>
第四次 (2月上旬)	<ul style="list-style-type: none"> ○だるま行列の方法について考える。 ・地域の方や保護者と共に行列やお囃子の練習を行う。見られた方が笑顔になるだるま行列について話し合う。 ・三原小のだるま行列を披露する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行列を行う目標を想起させ、意欲を高める。 <div style="text-align: right;">  </div>
第五次 (2月中旬)	<ul style="list-style-type: none"> ○三原の元気について意見交流や感想を書く。 ・これまでの経験や活動を通して、自分の感想、三原の元気に貢献できたか、今後の企画について整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行列を成功させるまでの過程について振り返らせ、多くの方からの支援があったこと、声援を送られたこと、自分の生活に活かすこと、三原の元気への貢献について考え、作文を書かせる。

4 児童の反応 (授業後の感想等)

- 私は、「三原の人を笑顔にするぞ」と思いました。見ている人から「いいねえ、元気をもらおうたわ。」と拍手され、頑張ったかいがあったと思えました。来年の3年生に引き継いでもらいたいです。
- みんなで協力したから、だるま行列は大成功です。もっと、三原を元気にするために音楽の楽器を増やしたり、ほかの人もお面をつけて行列に入ったら楽しくなると思っています。